
空から落ちたアリス

千嶋桂華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空から落ちたアリス

【Nコード】

N3311T

【作者名】

千嶋桂華

【あらすじ】

月 日 空から女の子が降ってきた。白いウサ耳が生えてた。

???一般高校生男子と愉快的仲間達が、アリスと名乗るウサ耳っ子となんやかんやな話。基本コメディー多分恋愛は入らないシリアスも多分無理。 いつの間にか終わってたり更新されなくなっていることが多そうだよっ

「はじめまして、アリスです。」（前書き）

ウサ耳要素含みます。

落ち物系女子が出てきます

「はじめまして、アリスです。」

「こんにちわ」

柔らかそうな長い髪をふわりと揺らして、彼女は警戒心も好奇心も全く感じさせない笑顔で

俺に極普通の『あいさつ』をしてきた。

この状況で、まるで日常会話のように

「・・・誰？」

「はじめまして、アリスです。」

いや、だから誰だよ

確かに今日は、朝から運が悪かった。

女王にはいきなり呼び出されるわ、家を出るときに時計は忘れるわ！

途中の道は軒並み渋滞してるわ！！

拳句その道すがらあのクソ猫に遭ったもんだから

遅刻は確実、女王の般若のような顔が瞼の裏に浮かぶ。

そんな俺に対して、あの猫は

またいつものようにへらへら笑って

「ほらほら、そんな顔していると不幸を呼び寄せちゃうよ?」
などとのたまいやがった

あいつの予言は当たるとゆーのに・・・

目の前で、猫とは違う風に始終笑い続けてる彼女は

俺にとって幸運の女神だか不幸の権化だか知らないが

少なくとも今この状況では

俺は彼女の登場を素直に喜ぶことが出来ない

何故なら彼女は、道を急ぐ俺の真上から

まるで御伽噺の主人公のように、

降ってきたのだから

「あの・・・どいてくださってよろしいでございましょうか?」

その白い髪と

白い“ウサ耳”をふわふわ振りながら

彼女は朗らかに笑った

「ごめんなさい、腰が抜けたので無理です。」

「がんばってくださいよ!!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3311t/>

空から落ちたアリス

2011年10月8日12時24分発行